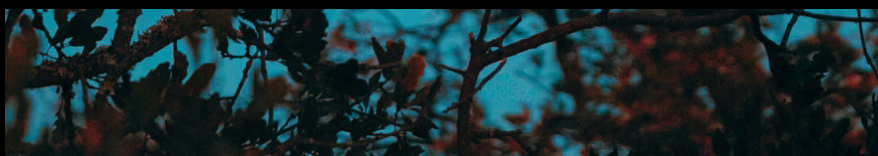


読書の栞



つかめないものを

つかみたくて

No. **155**

田園調布学園
中等部・高等部
図書委員会

一	文豪が愛した食事	三〇五
二	角川武蔵野ミュージアム	六〇九
三	手紙文化＋先輩は絵本作家	一〇〇～一一
四	雪のうた	一二〇～一二五
五	先輩は看護学科2年生	一六
六	最初の一行クイズ	一七〇～一八
七	月が綺麗ですね	一九〇～二二
八	眠るお宝 武者小路実篤	二二〇～二三
九	山手散歩	二四
十	編集後記	二四

文豪が愛した

食事



世

に残る作品を書きあげた作家たちは、執筆中、思案を巡らし、想を練って練って時間をかけて、ペンを走らせたはずです。

そんな文豪の作家活動を支えたものに、おいしい食事、酒、煙草、危ない薬などいろいろあつたでしょう。私たちはその中でも「食事」に注目しました。

彼らが何度も通った店を図書委員が特別にご紹介します。

芥川龍之介が愛した

元祖 くず餅

最初に紹介するのは、江戸天神の側に位置する「船橋屋」。江戸時代から続いている老舗の甘味処です。「船橋屋」のくず餅は厳選された小麦澱粉を四五〇日間乳酸菌発

酵させ、職人が丁寧に蒸し上げます。くず餅と秘伝の黒蜜と香り高いきな粉を絡めることによる調和の妙は、一瞬で江戸名物として大



人気になりました。

そのくず餅が大好きだったのが、『羅生門』や『杜子春』で有名な大正を代表する芥川龍之介です。甘党で知られる芥川には、中学時代に「体操の授業を抜け出し、くず餅を食べに来て、また学校へ戻って行った」という衝撃のエピソードがあります。(やってみてくださいね。)

また、店には『宮本武蔵』や『三國志』などの歴史小説で有名な吉川英治が墨書きをした「船橋屋」のケヤキの看板がありました。吉川英治も芥川龍之介と同様に「船橋屋」の味に惚れていました。執筆に疲れた際に黒蜜を塗ったパンをよく食べており、さまざまな黒蜜を比べた結果、最も美味だと選んだのがこの黒蜜だとか。その縁で書いたのがケヤキの看板でした。吉川英治は大きな文字の揮毫(きこう)は決して残さなかったのですが、唯一残したのがこの看板だそう。どれほど彼が「船橋屋」の黒蜜を愛していたかがわかるエピソードです。実際に見た看板は、堂々としており、見る人の心が暖まるような文字でした。ファンは

必見でしょう。

店内は落ち着いた雰囲気です。中庭で食べることもできます。

くず餅のもちもちとしたかみごたえのある食感が癖になりました。その弾力のあるくず餅にきな粉と黒蜜がかかっており、とても甘くて美味しかったです。



吉川英治の筆による大看板 (写真 船橋屋様提供)

数々の文豪に 愛された団子

次にご紹介するのは日暮里、芋坂にある「羽二重団子」です。「羽二重団子」は一八一九年に創業した老舗の名店です。

さまざまな作品に「羽二重団子」が多く登場しています。

正岡子規が寝たきりになっていたときに書かれた『仰臥漫録』という日録では「あん付き三本焼き一本食ふ」と書かれています。

また、岡倉天心もお店でお酒を楽しんでいたことが、ご長男の随筆からも伺えます。

ある日、天心が馬で来店した際に、馬だけが帰宅してしまったそうです。心配した家族が探し回ったところ、「芋坂の団子屋で陶然として帰るのを忘れていた」との記述が残っています。

夏目漱石の『吾輩は猫である』に「行きましょう。上野にしますか。芋坂へ行つて団子を食いましょうか。先生あすこの団子を食ったことがあります。奥さん一べん行って食つてごらん。柔らかくて安いです。酒も飲ませます。」という描

写もあります。この文章から、漱石が実際に団子を店で食べていたことがうかがえます。

店には文豪関連のメニューがあります。子規セット、天心セット、漱石セットです。

「子規セット」では、餡団子のひとつひとつにしっかりとこしあんがついています。子規は相当甘党だったのかも……と想像しました。餡団子は二本でちょうどよい食べ応えでした。

「天心セット」では、焼き団子は醤油だけで焼かれ、米のほのかな甘みも感じる独特の味でお酒との相性も抜群だそうです。

「漱石セット」は、猫型もなかのたつぷりの餡と醤油味の焼き団子の組み合わせで、とてもバランスよく食べられました。



江戸川乱歩が通った 天ぷら屋

次は、神保町に位置する「神田神保町 天麩羅 はちまき」です。一九三一年から神田駅でお店を開いていましたが、戦争のため移転し、一九四五年から現在まで神保町で店を続けています。

この店を愛していたのが、『人間椅子』や『怪人二十面相』などの推理小説で有名な江戸川乱歩。乱歩は出版の校了作業が落ち着く毎月二十七日に、「二七会」と呼ばれる宴会を開いていたらしく、その時に穴子海老天丼をよく食べていたそうです。店には江戸川乱歩をはじめ、井伏鱒二らの有名な文豪の直筆サインが飾られています。

写真は、江戸川乱歩が食べた



いう穴子海老天丼。穴子がとても大きく、ふっくらしていて絶品でした。

文豪を虜にした 銀座のソーダ水

最後に紹介するのは、東京銀座に位置する「資生堂パーラー」です。

一九〇二年に東京銀座の資生堂

薬局内で日本初のソーダ水とアイスクリームの製造・販売を行う「ソーダファウンテン」として創業したのが始まりです。その後、本格的なレストランとして「資生堂アイスクリームバーラー」を開業しました。創業者は、本物志向にこだわり、その高品質なメニューが多くの文豪をとりこにしました。そのうちの一人、谷崎潤一郎は小説『金と銀』において、ソーダ水を「冷たい、爽快な、胸の透き徹るような液体」と述べています。他にも太宰治の『火の鳥』『正義と微笑』『ろまん燈籠』、川端康成の『東京の人』、森陽外の『流行』など、多くの文学作品で言及されています。作品に思いを馳せて、ソーダ水を口にすれば、彼らの生きた時代を感じられるでしょう。

「資生堂バーラー」のもう一つの名物、アイスクリーム。グルメな永井荷風も大絶賛したほどであり、「資生堂のアイスクリームを食べたら、他のは駄目ですよ」と言葉を残したほどです。

今ではソーダ水はアイスクリームソーダとして売られており、今回はオレンジと期間限定のラズベ

リーをいただきました。

半透明なソーダ水の上にはアイスクリームが浮かんでおり、気泡が無数に出ていました。ソーダも口に含んでみると、濃厚な味わいで炭酸の強さも程よい。アイスもくどくなく、それでいてあと引く美味しさでした。グラスの中でアイスとソーダ水が混ざると次第に泡ができて、それをストローで掬って食べるのが甘くて美味。確かにこれは名だたる文豪をうならせる一杯だと感じました。

永井荷風も食べたというアイスクリーム。実際に食べてみると、とても優しい甘さで滑らかな口溶けでした。一緒に添えられたクッキーとの相性も抜群です。

人生で一度は食べてみることをおすすめします。



文

豪が愛していた食事は

どれもたまらない味でした。

当時の作家たちが日常的に食べていたと知ると感慨深くなります。

どのお店も老舗の名店です。調べると、少し前にはあったが今はもうないという店も多くありました。消えていった店にも、文豪たちの思い出や貴重な品があったことでしょう。そう考えると悲しくなります。ですが、時流に抗い、今も存続している店もあります。これらの店が末永く続いてほしいと願います。

文豪は、多くのアニメやゲームで題材にもなっており、その作品の中に推しがいる人もいます。この記事を読んで彼らが通っ



た店に立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

最後になりましたが、今回取材させて頂いたお店の皆さまありがとうございました。

《お店の情報》

「船橋屋 亀戸天神前本店」

東京都江東区亀戸3-2-14

「羽二重団子 本店」

東京都荒川区東日暮里5-54-3

「神田神保町 天麩羅はちまき」

東京都千代田区神田神保町1-19

「資生堂バーラー」

銀座本店サロン・ド・カフェ」

東京都中央区銀座8-8-3

東京銀座資生堂ビル3F

参考文献

『文豪とアルケミスト』ごはん帖
ポストメディア編集部編、一迅社
(2018年)

中三 高二
中二



羅生門のジオラマがありました！（撮影 大場）

角川武蔵野ミュージアム 本の旅

本とアートが組み合わせ
たスポットを取材しま
した。
本は好きだけど最近マン
ネリ気味、と思っている人
はいませんか？ 本との新た
な出会いやロマンスを求め
るなら、ここから始めては
いかがでしょうか。

一目惚れ # 本 # 角川ミュージアム # 内容 # まだ # 知らない



『もしあのBIGアーティスト
が[文春砲にやられた]
歌詞を書いたら』
相田毅
幻冬舎



『おとぎ話の絵画史』
春澄社編
辰巳出版



『世界の美しい本屋さん』
清水玲奈
エクスナレッジ



『失はれる物語』
乙一
KADOKAWA



『夢十夜・草枕』
夏目漱石
集英社

まずタイトルに目が釘づけになり、次に載っているアーティストに惹かれ
て手に取りました。それぞれの特徴が見事に捉えられています。文春砲以
外にも、「ゴキブリ退治」や「菌に青のりがついていたら」といった架空のテー
マのもと歌詞が書かれています。自分の好きな詞を見つけてみるのも、異
論を唱えてみるのもあり。色々な楽しみ方ができる本です。（ ）

私は表紙に違和感を感じ、この本を手に取りました。展示してあったスパー
スには、御伽話に関する本が置いてあったのですが、挿絵に注目して書か
れているというのが斬新で特に心惹かれました。幼い頃に夢中になったお
話の世界を、絵画の視点から覗いてみるのも面白いかもしれません。（ ）

あなたは本屋が好きですか？ この本には世界中にある美しい本屋がたく
さん紹介されています。私が特に気になったのは、Batter Books です。場
所はイギリスのアニック。かつては人で溢れていた旧アニック駅は路線整
理により廃駅になりますが、ある二人の出会いにより駅全体が本屋に生ま
れ変わりました。今では三十五万冊の本があり、年間二〇万人が訪れます。
他にも素敵な本屋が満載。あなたのお気に入りはどこですか？（ ）

ある日突然事故に遭い、視界や聴覚、嗅覚を失い右肘から右手にかけての
感触しかわからなくなってしまう男性。その事故は、些細なことで妻と
喧嘩をしたまま家を出た朝に起こりました。伝えたいことがあるのに伝え
られない、もどかしい思いが募る物語です。家族やお世話になっている人
に感謝を伝えたい一冊。（ ）

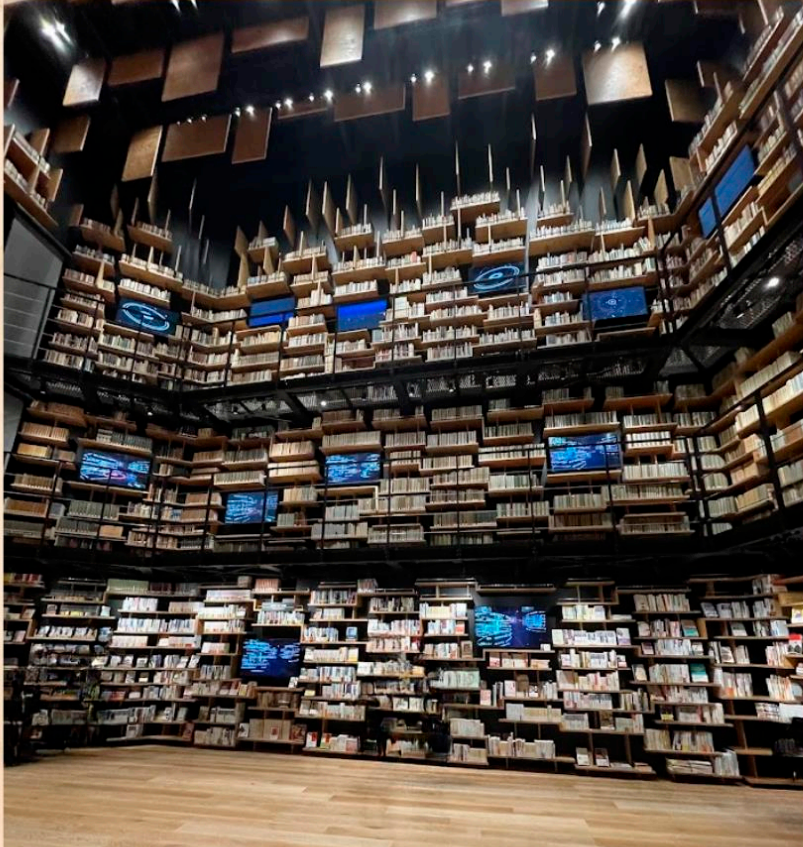
みなさんは、夜に見た夢を覚えていますか？ この本は、夏目漱石が実際
に見たともいわれる夢々が書かれています。ほんやりとした不思議な世界
と、現実との境界線は、一体どこにあるのでしょうか……。（ ）

本棚劇場

1. 本棚劇場とは？

角川武蔵野ミュージアムにはブックストリートと本棚劇場があります。ブックストリートには約二万五千冊の本が九つに分類され高さ約50メートルの本棚に置かれています。

本棚劇場には、KADOKAWAが出版した書物はもちろん、角川源義や山本健吉の個人書籍など約三万冊が8メートルの本棚に配架されています。新しい本に出会うために本の可能性を最大限に活かした迫力ある建築デザインです。



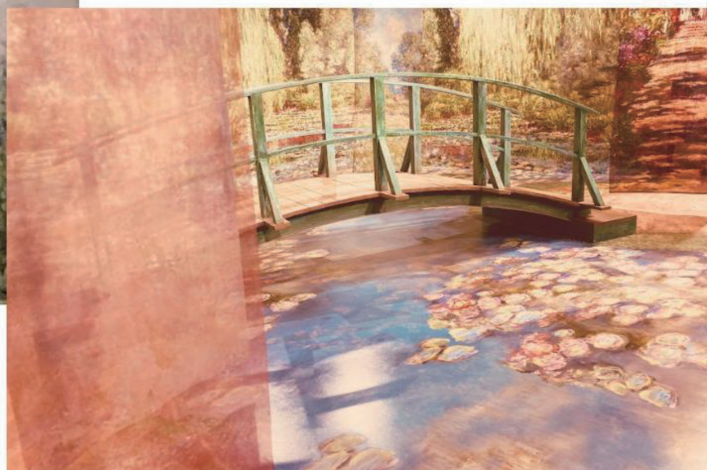
2. プロジェクションマッピングとは？

この巨大な本棚では二十分ごとにプロジェクションマッピングが上映されています。ここでは、「忘れられていく文字や文、本などを未来に繋いでいく」というテーマで映像が見られました。



一階は、漫画・幼児書、二階はライトノベルコーナーで、約三万五千冊の本があります。スタッフおすすめ漫画コーナーもあり、漫画好きな人も、そうでない人もお気に入りの漫画に出会うことができます。私も、いつもは手に取らないようなジャンルの本を知り感激しました。





鳥が歌うように、
絵を描きたい



モネ
イマーシブ・
ジャーニー

僕が見た光

すべては千変万化する、石でさえも



モネ



ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会
(ルノアール)

同ミュージアムでは、企画展「モネ イマーシブ・ジャーニー 僕が見た光」が二〇二四年の年末に開催されていました。モネの池をモチーフにした展示もあり、彼が愛した景色を体感し、肌身で感じることでできます。彼が生涯で巡った場所をたどりながら進んでいくと、四方がスクリーンで囲まれた部屋に出ます。音楽とともに映し出される印象派の絵の数々。知識ゼロという人でも、絵の中に入ったような没入感を味わえます。

また、「印象派展」とは印象派の画家たちが参加したグループ展のことで、モネを筆頭にピサロやモリゾ、ドガなどの画家が出品していたそうです。



印象・日の出

これら名画の実寸大は見事でした。あたかも自分がその時代の展覧会に赴いたような既視感を覚え、写真や教科書で見るよりも大型のスクリーンだと細部まで観察できました。印象派の描き方も詳しく説明しており、見ごたえたっぷり。絵の具の変遷や、表現技法、モネの作品に特徴的な連作についてなど初めて知ることばかりでした。まさに、「僕（モネ）が見た光」を「わたしにも見える光」に変えた画期的な展覧会でした。二〇二五年三月二五日まで。

(高二 高一 中三 中二)

手紙文化で繋がる 楽しさ

手紙文化 絶滅の危機

手紙文化のすすめ

私は、今廃れつつある手紙の文化の魅力を伝えたいのです。私が手紙に没頭したのは、小学生の時です。授業で、宛名から手紙の書

近年、郵便料金は高騰し、封筒の手紙（定形）は84円から110円に、また葉書は63円から85円へと値上がりしました。現代はSNSの普及などで、手紙や葉書を書く機会はどんどん減っています。実際、私の周りでも誕生日プレゼントに添える手紙を除けば、ほとんどの人が手紙を書かなくなったように感じます。

き方までを学び、実際に手紙を出しました。小学四年生の時に送ったのは、遠くに住んでいて普段なかなか会えない祖父母でした。祖父母からも、綺麗な便箋と封筒で返事がきました。携帯電話のメールでは「データ」でしか残らない言葉が、手紙になると「形」ある物体となって手元に残るのがとても新鮮でした。たくさん返信が集まれば集まるほど達成感が高まりました。徐々に私は、便箋や封筒以外にも、切手・ペンの種類までこだわることがになり、手紙を書くことがさらに楽しくなっていました。ガラスペンは力の入れ具合で色の濃淡がつけられるので奥深いです。また、海外ではそこでもか買えない切手もあり魅力的です。

私が手紙文化の中で一番魅力的だと思うのは、「待つ」時間があることです。祖父母と文通していたとき、家の郵便受けを毎日見に行くのが日課になっていて、実際手紙が郵便受けに入っているとメールやSNSからでは得られない特別な嬉しさがありません。先日、新聞に手紙の魅力について



↑オーストラリアで買った
コアラの切手



↑ガラスペンに挑戦しました

卒業生との文通

の記事を見つけました。作家の小川糸さんは「手紙のほうがちよっとリラックスして待つことができませんし、今の忙しい時代だからこそ必要」と書かれていました。私はこの言葉を読んだとき、手紙文化は現代においてますます重要であると感じました。

(二〇二四年十二月十三日
朝日新聞 朝刊16面)

現在、私は田園調布学園の卒業生、佐藤美恵子さん(調布高等学校二回生)と文通を続けています。初めてZOOMでお話してから約二年間、手紙のやり取りをしてきました。誕生日やクリスマスなどのイベントには、プレゼントやカードを贈っています。カードの

デザインや種類を選ぶのも至福のひとつです。佐藤さんと文通を長く続けてこられたのも、手紙という小さなギフトが力を貸してくれたからだと思います。

みなさんも親しい友人や先生、親戚など身近な人に手紙を贈ってみてください。きっと相手も喜び、双方にとってかけがえのない体験になるのではないでしょうか。

(高一)



↑佐藤さんに送った
クリスマスカード



↑佐藤さんからいただいた
レターセット

先輩から

絵本作家デビュー！

卒業生 金指 澤村 桜子さん

『さいあくな雨の日』

(文芸社セレクション) 出版



桜子さんは二〇〇六年卒。58回

生。やなせたかしさんや柴田元幸さんにも取材を企画するなど、腕図書委員でした。この度長年の夢だった絵本を出版しました。

●描こうと思ったきっかけ

自宅近くに水はねがひどい道があり、そこを雨の日に歩いていた時に思いついたお話です。最悪だと思っていた日にまだ気づいていないだけで何か特別なことが起こってるかもしれないということが伝えたいテーマです。

●イラストはいつから？

小学生の頃に絵画教室に通っていました。中学生の頃は友達とイ

ラストを見せ合ったりしていました。その後は絵を描く機会はありませんでしたが、数年前から投稿サイトを知ってデジタルでお絵かきをするようになりました。

●おすすめの本

畠中恵先生の『しゃばけ』シリーズが好きです。

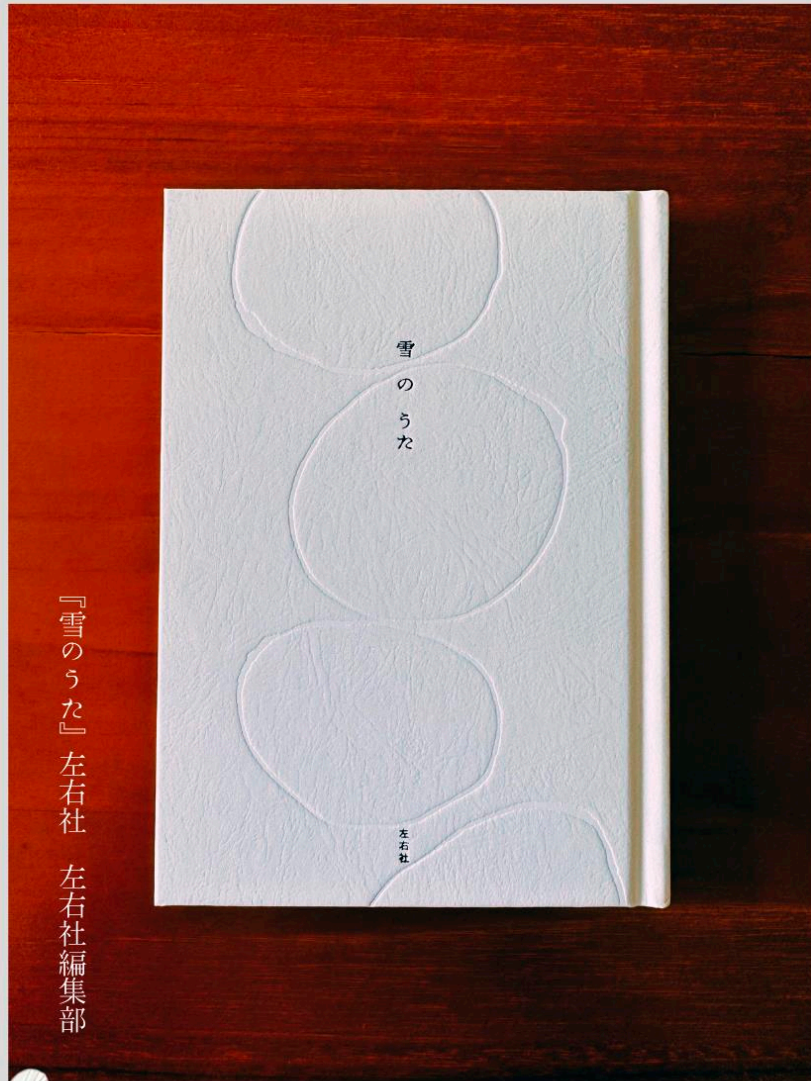
●普段の仕事は？

内科医として外来診療をしています。患者さんに納得して治療に取り組んでもらえるようにわかりやすく説明することは大変ですが、やりがいも感じています。

●メッセージをひとこと

作品を人に見てもらうことが好きで絵本作家や漫画家に憧れていましたが、進路を決めたときにもう人に見てもらうことはないんだと思いこんで絵を描かなくなっていました。投稿サイトなど発表の選択肢は色々あると知り、夢を叶えたい欲も出て今回出版を選びました。忙しかったり悩んだりすることはたくさんあると思いますが、好きなことを大事にしてほしいです。本は二〇二四年十二月に発売されました。一冊でも売れたら嬉しいですね。(インタビュー)

掴めないなら
うたえばいいねと
言ったから



『雪のうた』左右社
左右社編集部

きみが
雪だるまを壊す
柔らかい
手つきに宿る
倫理の歴史

『雪のうた』左右社
谷川電話

Part1-1

三十路から
傘をさしたく
なりました
白い頭が
似合わぬように

国語科 上野貴裕

雪は真っ白で、音也没有せん。

だからこそ、私たちは雪を見ると何か大切な意味で色をつけたくなるのです。

今回『雪のうた』という歌集にインスピレーションを得て

二人の先生に、雪にまつわる短歌をつくって頂きました。

それに私が返歌と小唄をつけ加えました。

私が創作した部分はほんの一部の解釈にすぎません。

あなたならどんな色に染めますか？

雪の日に
傘をさしたく
なつたなら
霞草でも
かぶりませんか

返歌



Part1-2

国語科 上野貴裕

三十路から
傘をさしたく
なりました
白い頭が
似合わぬように

「小晰 時宿り」

—— 回想 ——

雪の日しか使えない魔法知ってる？

あなたはいつか、聞きました。

知らない、どんな魔法なの？

雪の日に、傘をさすんだ。ただ、それだけ。

それって、魔法なの？

魔法だよ。

どんな？

時を止めるような。

時って、止められるの？

雪の日ならね。あと傘を持てれば。

それ、本当に？

本当だって。今度、雪が降った日に試してみようよ。

そして、いくつかが日が過ぎ、雪が降りました。気がつけば、街は雪に覆われ、道も家も輪郭を失っていました。白く静まり返った世界に、ただ傘をさした私たちの足音だけが響いています。あなたの歩き方はとてもゆっくりで、静かで、どこか優しさを帯びていました。

「みんな真っ白になったね」

「なったね」

「でも、私たちだけ変わらない」

「変わらないね」

「まるで時がとまったみたいに」

「雪がとけたみたいに」

「魔法はほんとだったね」

「ほんとうさ」

傘の上に雪がそっと降り積もっては、あなたの肩に静かに滑り落ちていきます。

傘に積もった雪は、外灯に照らされて輝いて、風が吹くたびに静かに舞っていました。

—— 今 ——

私は今年で三〇歳になります。あの雪の日から時が経ち、あなたとはいっからか、会わなくなっていました。あなたのことも、そして雪の日に傘をさす魔法も、すっかり忘れていました。

なのに近頃になって、どうしてか、よくあなたを思い出すのです。

あなたは今もあの時と変わらずにいますか。私は変わりました。

きつと多くのことが。忙しさに追われる毎日、あの頃のように魔法のことなど考える余裕すら失っていました。変わりがなくなかったものもあつたけれど、変わらないといけなかったのです。そしていつしかその変化に鈍感になる自分が怖い。でも、心のどこかで「変わってしまった」と感じるのは錯覚だとも思っていました。そんなことを感じてからでしょうか。最近やつとほんの少し余裕ができた時、ふとあなたのことを思い出して、雪の日に傘をさしたくなったのです。

—— 追記 ——

結局、雪は傘で止められても、三十路の時の流れは止まりませんでした。

それでも、私はきつと、雪の日に傘をさすでしょう。時を止める魔法を、今でもどこかで信じているから。

三十になるのは、少し怖いですが。でも、雪の日に傘をさせば、あの日の魔法が、ほんの少しだけ続いている気がするのです。

初化粧

紅らむ頬の

空なぞる

行き交う人と

雪に恋う空

国語科 橋本彬生

夢を見た

僕が見る夢は一つしかなくて

いつも同じで

何度も何度も繰り返される

そこには君がいて

鏡の前に座って

いつもはしないはずの化粧をしている

不慣れだから、初めてだから、頬のチークが少しだけ濃くて

花の蕾のようだった

どうして化粧をしているの

と聞いてみたら

今日は、初雪だから、毎年初雪の日を私たち、記念日にしない？

と君は答えた

君の頬はさらに紅く染まって

それがとっても愛おしくて

そう思った時僕の心臓はすごくすごく高鳴っていて

上手く言葉が出なかった

君の頬に触れようとしたら

君の頬に触れようとした

君の頬に触れようとし

君の頬に触れようとし

君の頬に触れよう

君の頬に触れよ

君の頬に触れ

君の頬に触

君の頬に

君の頬

君の

君

今日は、初雪が降って

街が真っ白に染まった。

街を行き交う人の中に

君の姿なんて見つからなくて、

でも僕は、探すことしかできない。

都会の夕方の空は、雪が降ったはずなのに

綺麗な紅に染まっている。

あの空に頼めば、

どこまでも続くはずの空に頼めば、

もし君に空が見えてれば、

きっと見つかるような気がしてならない。

先輩から

第75回卒業生 中川 眞唯子さん
(北里大学 看護学部 看護学科2年)**あの頃も本が。今も本がそばにある。****「新・大学でなにを学ぶか」** 上田紀行編著 岩波ジュニア新書

私は、看護の大学に入ってから今まで、試験で良い点数を取り、自分が行きたいコースの選抜試験で落ちないようにすることに重きを置いて勉強してきました。しかし、このたび2年生の前期定期試験を終え、「大学ってテストの点を取るためだけにいくとこだっけ?」「4年間このままでいいのか?」と立ち止まってしまいました。

そんなときに出会ったのが、この本です。この本では、“大学”をどういうところと捉えるかについて、学問への興味が尽きない13人の先生方がそれぞれの視点から魅力を語っています。読後、私は、授業や様々な本にふれるたびに「この知識は看護のケアにどう役立てられるのか」と考えるようになりました。今では「ここで学んでいることは将来どう役に立つのか」、「この領域に私は興味があるのか、ないのか」など自分なりの視点を常に持つようになりました。

実は私は、看護師の資格以外でほかに絶対に取りたいと考えている資格があります。それは、保健師の資格です。(助産師の資格も今考え中です。)しかし、保健師課程を取ることができるのは、学年の約1/3に限られ、さらに、助産師にいたっては学年で3~4人だけという狭き門なのです。当然、ある程度の成績を収めていないと選考にも通らない可能性が高いのです。

つまり、試験で良い点数を取ることを放棄する訳にはいかないのです。選考試験までにある授業や病院実習を経て、しっかり成績をとっていないと、いざ「保健師になりたい」「助産師になりたい」と決意した時に、過去の成績不良のために断念することになるかもしれません。それだけは絶対に避けたいと思っています。この本を読んだ後、“学ぶ”という機会が、一層充実したものになるとひしひしと感じています。

ぜひみなさんも一読してみたいはいかがでしょうか。

最初の一行クイズ

① 桜の樹の下には
屍体が埋まっている！

② ある日の暮方の事
である



『桜の樹の下には』

ひんと①
「華氏」は温度の一つ
だよ！



『異形のアム』



『華氏451度』

ひんと②
ここでの「ギーク」はサーカスで
グロテスクな芸を見せる見世物師
のことだよ！



『重力ピエロ』



『羅生門』

⑤ 「ママがギークだったころはな、
夢っ子よ」

③ 春が二階から落ちてきた

④ 火の色は
愉しかった

答えあわせ

①桜の樹の下には屍体が埋まっている！



『桜の樹の下には』
梶井基次郎

短いながらも幻想的でしっとりした怖さがつまっている。青空文庫で無料で読める。

ゴマブックス、ほか

②ある日の暮方の事である



『羅生門』
芥川龍之介

生きることの善悪を問う話。意外と読みやすい。青空文庫で無料で読むことができる。

青空文庫、ほか

③春が二階から落ちてきた



『重力ピエロ』
伊坂幸太郎

連続放火事件に興味を持ち謎を解こうとする兄弟がみたものは？「春」とは弟の名前。

新潮社、ほか

④火の色は愉しかった



『華氏451度』
レイ・ブラッドベリ

舞台は本が禁制品となった世界。451度は本が燃える温度。描写が細かくて美しい。

早川書房、ほか

⑤「ママがギークだったころはな、夢っ子よ」



『異形の愛』
キャサリン・ダン

サーカス団を運営する一家のいびつでおぞましい家族愛。恐い話が好きな人にぴったり!?

河出書房新社、ほか

最初の一行、つまり書き出しは、読者の興味を惹きつけようと試行錯誤して練られるもの。作家や作品の個性、雰囲気があった一行でにじみ出てきます。そんな魅力のつまった書き出しをクイズにしました。

あなたはどの書き出しがすきですか？

中2

I love you

月 が 綺 麗 で す ね



「死んでもいいわ。」

あなたは、恋をしたことがあるでしょうか。

もしあるとしたら、どのような言葉でその気持ちを伝えますか？

―夏目漱石の逸話―

夏目漱石が英語教師をしていたころ。生徒の一人が「I love you」を「我が君を愛す」と翻訳しました。すると漱石は、日本人ならば、このような直接的な告白はしないだろうと示唆し「月が綺麗ですね」という婉曲的な翻訳をすすめたそうです。

その後、「月が綺麗ですね」という告白に対する応答として、二葉亭四迷が「死んでもいいわ」という答えを書き加えました。

人の心はさまざまで、とても厄介なものです。きっと一言で「愛」と断言してしまえば、そこからどれほどのことがこぼれ落ちてしまうことか、はかりしれません。

「月が綺麗ですね」というフレーズがとてもロマンチックに響くのも、きっと全てを理解しきれないベールに包まれた美しさが理由だと思ふのです。そして、「愛」という言葉よりも、もっと曖昧で、定義のないノンバーバルなコミュニケーション。それらは、内面に隠れている自分ならではの心をすくい取り、時間、場所、感情、想い、声色、表情などにのせて、じかに相手に送ることができます。

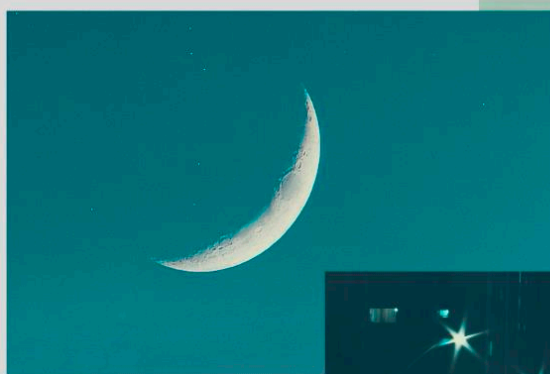
そして気になる二葉亭四迷の答え、「死んでもいいわ」とは？

ここはあえて、私が喋るのはやめておきます。

あなたは、どのように想像しますか？

今回は、二人の先生に「月が綺麗ですね」に対しての答えを考えていただきました。それに私自身の考察を加えたものです。

ぜひ楽しみながら読んでみてください。



密 心

み そ か ご こ ろ

「月が綺麗ですね。」
「阿蘇山から見える月もきれいなんだよね。
そうだ、今年は九州に行かない？」

国語科 上野貴裕

私の中で思い描くシーンは、親しい先輩と後輩のよう
な二人が、ふと都会の夕暮れを見上げる、というもの。

二人の頭上には、うつすらと月が輝いています。

ずっと心の中に先輩である「あの人」への思いを秘め
ていた後輩の女の子。今この瞬間、直接言うのは恥ずか
しいから、あの月にのせてそっと思いを伝えてみます。

「月が綺麗ですね」

すると、あの人にその想いは伝わったのでしょうか。

「阿蘇山から見える月もきれいなんだよね。そうだ、今
年は九州に行かない？」の答えが……。

「あの人」は阿蘇山から見える月も綺麗だと提案して
きた。ちよつとだけ話題を変えられたようで、もしかし
て……振られた？

でも、よく読んでみると「見える月『も』きれいな
んだよね。」ということ。それならば、「いろいろ別な場所
から見ても月は綺麗です。」とも読み取れます。もしこ
の捉え方が正解だったとすれば、「そうですね」とその
まま言うよりも、ちよつと斜め上に行く素敵な返し方。
尊敬せずにはいられません。

ちなみに、どうして阿蘇山なのか気になりました。

上野先生のおっしゃったことによると、阿蘇山のカルデ
ラの地形が月に似ているとのこと。月面に私たちが行く
ことは難しいけれど、月のような場所から眺める本物の
月は、どんなものなのでしょう。不思議な雰囲気です。

そして次に「あの人」は九州への旅に後輩を誘います。「今年は」
なので、去年もどこかを旅していた二人。どこに行っていたのでしょ
う。きっと、楽しかったに違いありません。

この女の子からの不慣れな（少なくとも私はそう感じた）隠れた告白
に、「旅の誘い」で返事することは、「あの人」の優しさのかなと
感じました。あの人自身も気持ちをふんわりとそれとなく伝えつつ
流れる時間を止めないように、凍らせないように、そのような気配が
ほんのちよつぱりだけ漂っているような気がします。ここはうまく言
葉では言い表せないのですが……。

あなたは、どのように思いますか？



「月が綺麗ですね。」

「ええ、手が冷えます。」

国語科 橋本彬生

この会話をしている二人はどんな関係なのでしょう。
出会ってから日の浅い関係、それとも、もう少し距離の
近い仲なのでしょうか？

一人が

「月が綺麗ですね」

と静かに呟きます。

するともう一人が

「ええ、手が冷えます」

と同じように静かに、ゆつくりと返します。

私の中のイメージでは、静かな夜空の下での会話。

その会話の脈打つ音はきつと、あったかいはずで

そして私はこの返しは「Yes」だと思います。

「手が冷えます」とは何をさすのでしょうか。私は最初

「月が綺麗ですね」という告白を断っているのではと考

えました。「冷えるから、月なんか見ずに早く中に入り

ましょう。」という意味かな……と。しかしそれなら

「体が冷えます」でもいいはずで。どうしてわざわざ

「手」が冷えることにしたのか。もしかしたらこの人

は、相手の人と手をつなぎたかったのかもしれない。

手が冷たいから、あなたのあたたかい手で温めてほし

い。そういう意味かなと捉え直しました。

加えて、手が冷えるのは、体が冷える最初の兆候で

す。今、この人は手だけが冷たいけれど、このままにし

ていたらいつか体も心も全てが冷え切ってしまう。

だから一人にしないでほしいという
切なる思い。

そして、あえて「手が冷える」こと

のみを伝え、あなたなら私のことを理解し
てくれるはずだという、確信めいた恋心。

あなたは、どのように感じますか？

()

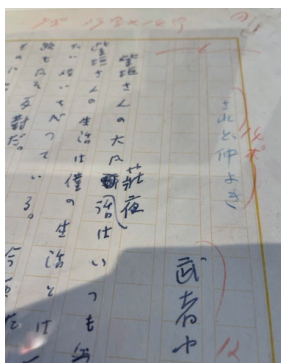
人 想 懸

と び う そ け



田園調布学園に眠るお宝!?

「武者小路実篤直筆の原稿」



私たちが普段勉強や部活に励む田園調布学園。そこにはとんでもないお宝が所蔵されているのをご存知だろうか。それは「武者小路実篤直筆の原稿」である。

本校に保管されている原稿の作品は、「されど仲よき」という作品。この原稿は昭和37年（1962年）に書かれたもので、かつて保護者から寄贈された。

原稿用紙は現在、保存性の高いメリネックスフィルムに封入され、湿気や酸素などの錆の要因を遮断して保存されている。

私は、実際に原稿を見て、本当に武者小路実篤が存在していたのだと実感し感動した。そのうえ、

率直に「かわいらしい字だ」と思った。実篤の字は、小さく丸みを帯びており、悪筆だという評判も少し納得できた。本文は黒ではなく青の万年筆で書かれており、鉛筆の書き込みがあったり赤鉛筆で校正されていたりした。約六十二年前にかかれた万年筆や鉛筆の跡をみると、生き生きとした筆跡が直接私の胸に語りかけるような気がする。

次に、武者小路実篤について説明しよう。

武者小路実篤は、明治43年（1910年）に志賀直哉らと雑誌『白樺』を創刊し、以後六十年に渡って作家活動を続けた。楽観的な自我主張や理想主義的な隣人愛を主張して、白樺派を代表した。楽観的な理論構成や素朴な人生否定は自然主義前派だとして批判も受けたが、彼のもつユーモアや明るさはたくさん読者に影響を与えた。彼は多くの人生観を著したことで

知られ、人生の賛美、人間愛を語り続けた。

また、実篤は四十歳頃から絵も描き始めた。独特の画風でたくさん作品を生み出し、多くの人に親しまれた。『白樺』では美術館創設を計画し、日本国内外の各地の美術館を訪れるなど、美術への関心も強く、たくさん読者の評論を著した。実篤は生涯を通して文学だけではなく美術、演劇、思想と幅広い分野で活動し、たくさん読者の功績を残した。代表作は『お目出たき人』『友情』『幸福者』などがある。

ここで、『友情』という作品を紹介したい。

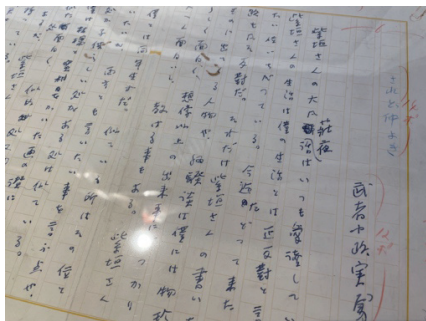
これは、素晴らしい友情で結ばれた脚本家の野島と作家の大宮が、野島の友人の妹に恋をし、友情と恋愛に葛藤する物語である。

私は、『友情』を読んで夏目漱石の『こころ』を思い出した。両作とも三角関係を描いているという点や、相手が同じ人に恋心を持っていると知りながらも友人を裏切ってしまうという点で、少し似ていると思った。『こころ』は裏切りをきっかけに両者とも自殺してしまうが、

『友情』では裏切りをきっかけに仕事に奮起するという前向きな結末である。これは、人道主義、理想主義を掲げる白樺派ならではの作品であると感じた上、楽観的で明るい性格を持つ実篤らしい作品だと私は感じた。

白樺派とは

白樺派は、文芸同人誌『白樺』に依拠し、キリスト教、トルストイ主義などの影響を受けつつ、人道主義、理想主義を掲げた文学者たちのことを示す。学習院出身の武者小路実篤、志賀直哉、有島武郎、有島生馬、里見弴らがこの派を代表する。



白樺派の魅力

ここでは、私が考える白樺派の魅力について語りたい。端的にいうと、白樺派の作品からは勇気をもらえたり、生きる希望をもらえたりし、前向きになれる作品が多い。

明治中期に評価された小説は、人間の悲しみや苦しみを描いた作品が多く、「人間は醜い生き物である」と訴えた作品が多大な評価を得ていた。そうした小説の在り方に疑問を抱いたのが志賀直哉だった。志賀は、「人間はもっと美しく、優しい生き物ではないのか」と考え、小説で人間の優しさを書いていくことに決めた。そして同じ志を持つ人々が集まり、白樺派が結成された。そのため、白樺派は「人間の優しさ」を追求した明るく樂觀的な作風が特徴だろう。

白樺派の文豪たち

志賀直哉

白樺派を代表する文豪の一人で、「小説の神様」と呼び親しまれた文豪。短編の作品が主で、簡素で的確かつ写実的な文体、そして強い倫理観に溢れた小説は、多くの文

学者に影響を与えた。これが「小説の神様」と呼ばれる理由と言えるだろう。代表作は『城の崎にて』『小僧の神様』『暗夜行路』など。

私がおすすめるのは『小僧の神様』である。

この作品は、秤屋で奉公する仙吉が番頭たちの会話を聞いて鰯が美味しいということを知る場面から始まる。仙吉は「自分もはやく番頭のように自由に好きなものを食べられるようになりたい」と願うが、奉公人である仙吉には自由に使えるお金はなかった。

そこで仙吉は、お使いに行くときにもらった電車賃を使って鰯を食べようとしたが、それでもお金が足りなかったため惨めな思いをしてしまう。たまたまそれを見ていた貴族衆議院のAが仙吉に鰯をおごつてあげる、という展開の物語である。私は、この話を読んだ後に胸がキュッとしめつけられた。仙吉が喜ぶことをしてあげたのは悪いことではないのに、Aは、淋しさや悪事を働いた後のような気持ちになっている。この小説から人に親切にすることの難しさや上流からの施しは時に良い結果を

生まないということを学んだ。

一方でAに鰯をたくさんおごつてもらった仙吉は、Aのことを神様かもしれないと思うようになり、悲しいときや苦しい時にAを思い浮かべ、いつかまたAのような人が思わぬ恵みを与えてくれると信じるようになる。

この二人の心情の対比が、私に切なさを感じさせた理由だ。また、結末をあえて書かない演出は、運命のどうしようもなさを引き出している。これが小説の神様と言われる由縁であろう。

有島武郎

白樺派の中で最も思想的に苦しんだ作家、有島武郎。第一次世界大戦後の社会状況下において有産階級であることや社会主義的風潮の中での自分の果たすべき役割に苦悩を深め、『宣言一つ』を執筆した。他にも、苦しい労働生活を描いた『カインの末裔』、時代の習慣に抗い奔放に生きることの苦痛を訴えた『或る女』を発表した。

ここでおすすめるのは『一房の葡萄』である。この作品は大正9年（1920年）に書かれた最

初の創作童話だ。西洋人だらけの横浜の山手の学校に通っている日本人の「僕」が、西洋人への何とも言えない劣等感により絵の具を盗んでしまうという展開である。童話のためとても読みやすい。が、終盤には考察の余地があり興味深い。作者が幼少期に山手のプリティンスクール（現横浜英和学院）に通っていた頃の体験がこの作品を生んでいる。心を揺さぶる細かい心理描写、葡萄などの事物に対する美しい表現が最大の魅力である。

最後に

近代の文学界に新たな風を吹かせた白樺派。そんな白樺派を代表する武者小路実篤の直筆の原稿が本校にあること、そして現物を見ることができたことはとても貴重な体験だった。本校の司書室に保管してあるので、興味のある人はぜひ司書に一声かけて、その目で見してほしい。

（高二）

横浜・山手散歩

『二房の葡萄』をご存知でしょうか。前ページを読んでいるならわかるでしょう。『二房の葡萄』は有島武郎の最初の創作童話で、舞台は横浜の山手。この地は、横浜の開港に伴い、旧外国人居留地として発展していきました。



有島武郎も主人公の「僕」と同じく幼少期に山手の学校に通っていました。今回私は、彼が歩いた山手の街をぶらぶら歩いてみました。

山手地区は、まるで欧州にいるようでした。それでいて都会の町並みの中には明治大正期の雰囲気も感じられます。建物ごとにも個性があるので、ぜひ廻ってみてはいかがでしょうか。

(高二)

『ナガサキの郵便配達』朗読会に参加

二〇二四年七月二七日 図書委員五人が朗読会に参加しました。

今年で三度目です。日本被団協がノーベル平和賞を受賞した昨今、世界のあらゆる所で起きている紛争をなくし平和な日々が続くよう声を上げ続けていかねばならないという思いを強くしたひとときでした。

会場はエスパス・ビブリオ。残念ながらこのブックカフェは昨年閉店しましたが、今後も場所を変えて朗読会は続ける予定です。朗読に興味のある人は一緒に参加しませんか？



高校生直木賞

2024年5月、第11回高校生直木賞の選考がおこなわれました。予選には北海道から鹿児島まで全国46校が参加し、そのうち他薦にて選ばれた19校が全国大会に出場。本校も全国代表に選ばれ、大場美穂さんが参加しました。「皆の読書熱に圧倒された。誰かに本を紹介するとしたら、という新たな視点で本を読むことができた」と感想を嬉しそうに語りました。一人で読む楽しみと同時に、皆で語り合う醍醐味を分かち合いました。



本校は、第二回より毎年参加しています。今後も本校は高校生直木賞に参加します。興味のある人は一緒に読み合いませんか。

詳しくは図書館まで。

編集後記

皆さんの中には、触れたくても触れられないものがありますか？
今号は「つかめないものたち」をテーマにしました。「常世」(とこよ)という言葉があります。意味は「永遠に変わらぬ世界」。
一方、私たちの生きる「現(うつ)」は「現実の世界」。現世に生きながらも、私たちはどこかで常世に憧れているように思います。
私たちがつかめなくて触れられないものは、現では曖昧な存在ですが、常世では永遠に存在しています。ある時間も、大切な誰かも、もういないあの人も、触れられない雪も誰かの感情も。そのような気がしてなりません。今回はその憧れを言葉にしたら美しいだろうと夢想しつつ執筆しました。

編集長

編集部

中2
中3
高1
高2

図書委員以外も携わりました。私も一緒に「読書の葉」を作りたいという人はぜひ声をかけてね。